



photo by 中山和弘

# 劇団態変、12年ぶりの 東京公演決定！

---

劇団態変 / Performance Troupe TAIHEN

---

1983年の旗揚げ以来、主宰・金満里の「身体障害者の障碍自体を表現力に転じ、未踏の美を創り出すことができる」という着想に基づき、身障者自身が演出し、演じる劇団として活動する。その高い芸術性へは定評があり、活動歴は世界的にも稀に見る長さとなっている。劇団自体の一貫してのテーマは、世界の人類史に於ける優生思想の価値観を、根底から転倒させるぐらいの身障者の身体表現、である。そうでなければ芸術の意味は無いとまでの強い自覚を持ち、人間の身体に対する違う価値の提示を行なう舞台身体表現を目指している。必然的に現在の演者は身体障害者に限っているが、近年世界中で見られる障害者芸術のジャンルとは一線を画し、日本では普遍的芸術として受け止められている。

創立時より「劇団」と名乗っているが、行なう表現は台詞演劇ではない。立つパフォーマーは立ち姿勢での表現も使うが、座るパフォーマーは車イスにも乗らずダンスフロアに直接身を投げ出し、這ったり転がったりしながら身体を床面に接触させ、概ね低い位置で舞台表現を構成させる身体表現である。

海外での公演も多く、'92年のアフリカ・ケニア招聘公演を皮切りに、英国はエジンバラフェスティバル・フリンジ3年連続参加、スイス・ベルン招聘公演、ドイツ・ベルリン・シュツットガルト招聘公演、アジアでは韓国実行委員会との2回に及ぶ共同公演など、世界中を駆け巡って来た。

我々が目指してきた動きは「ダンス」でも「舞踏」でもない、どこにもなかった「態変」の身体表現である。





photo by Kohji Fukunaga(Studio Epoque)

# 態変は芸術への参加を開く

東京周辺からの現地募集で、共に舞台を創ります。

- ・舞台で表現をする身体障害者を募集
- ・裏方スタッフとして一緒に舞台をつくる健常者（=黒子）を募集

「障害者が自宅や施設から這い出して、舞台上がるまでのプロセスも含め芸術である」

劇団態変はこの信念と共に、これまで多数の舞台未経験である障害者の方達と公演を創ってきました。その集大成として、2005年～2007年はマレーシア、2009年～2011年は韓国で、それぞれ現地の障害者・健常者を一から募集し、態変のスタイルを核としたチームを作り上げ、芸術性の高く評価されるステージを達成しています。

障害者・健常者の芸術を介した真の協働を貫く事は、現代社会に渦を巻き起こし、新たな文化の創出を促し続ける革命的行為。新たな勇気と共に、「東京」に挑みます。

---

## 公演までの流れ

2015年下半期 公募開始（出演者／黒子スタッフ）

出演者オーディション開催予定

2016年3月 ワークショップを経て、『ルンタ（風の馬）～いい風よ吹け～』本番

---

詳細は、決まり次第ホームページ等でお知らせします。

お問い合わせ：劇団態変（T/F 06-6320-0344 taihen.japan@gmail.com）



photo by 中山和弘



photo by 中山和弘

# 『ルンタ（風の馬）～いい風よ吹け～』

作・演出・芸術監督 金満里

音楽 山本公成 他

絵画 ウゲン・ナムゲン

「チベット死者の書」からインスパイアされた本作は、小さき人間が本来の命の意味と格闘する壮大な叙事詩として描かれる。態変の抽象身体表現が舞台空間に風を起こし、有機的に繋がる14シーン（2014年初演時）音楽は全編ライブ演奏にてお届け、東京バージョンとして新たにバンドを編成ウゲン・ナムゲン氏（チベット仏画師）の絵画とのコラボレーションも必見。

人間の身体自体に備わっている、宇宙との連動。

大きなサイクルを生みいい循環を、ルンタは希望している。（初演パンフレットより抜粋／金満里）

---

『ルンタ（風の馬）～いい風よ吹け～』 東京公演

公演日（予定） 2016年3月10日（木）～3月13日（日）

会場 座・高円寺1

出演 金満里 上月陽平 小泉ゆうすけ 下村雅哉 向井望 山口幸恵 他  
公募による障害者エキストラ

○お問い合わせ

劇団態変 大阪市東淀川区西淡路1-15-15

T/F 06-6320-0344 taihen.japan@gmail.com

<http://www.ne.jp/asahi/imaju/taihen/>

---

主催 劇団態変

座・高円寺提携公演

芸術文化振興基金助成事業